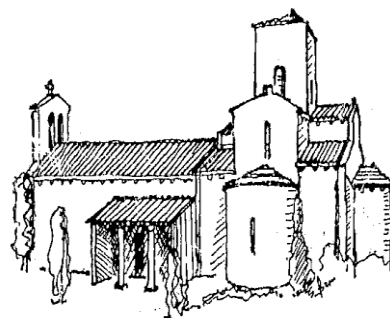


GERMIGNY-DES-PRES (ジェルミニー・デ・プレ)

カロリング王朝(個人)礼拝堂

歴史

ジェルミニー・デ・プレという名の起源は、ゲルマン人がつくったガロロマンのヴィラから来ています。Saint-Benoit-sur-Loire (サンベノワ・スール・ロワール) のフロリー修道院僧らがヴィラを使っていたが、シャルルマーニュの近臣であり、オルレアン司教、またフロリーの神父でもある Theodulfe (テオデュルフ) が、田舎の別荘として改築したものです。モザイク、漆喰、大理石敷石で豪華に装飾された礼拝堂(オラトワール)を増築し、806年1月に完成しました。



9世紀末、火事にあったこの礼拝堂は、11世紀に教区教会堂となりました。

その際西側後陣(奥の部分)の位置に、新たに身廊(主門から祭壇までの空間)が付け加えられたのです。

15世紀になると更に大きな身廊が建設されました。

18世紀後半、モザイクは厚い塗装の下に隠されてしまいました。

1820年になって、教区の牧師が、子供たちが教会の中で見つけた四角い色ガラスで遊んでいるのを偶然見かけ、こうして隠されていたモザイクが発見されたのです。その後モザイクの修復工事が開始されました。

オラトワールは1840年に歴史記念物に指定されましたが、これはフランスで最初に指定を受けたもののひとつであります。荒れるばかりであった礼拝堂の修復工事は1867年から行われ、この時に現存の大半が増再築されたのです。

建築様式

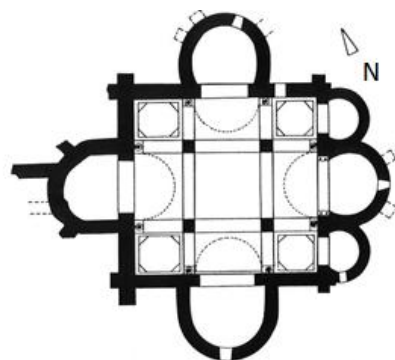
外側: 礼拝堂の建築様式をより良く理解する為には、先ず外から観察する必要があります。

礼拝堂と観光局の間の小道を通過して、建物の先端まで行って下さい。

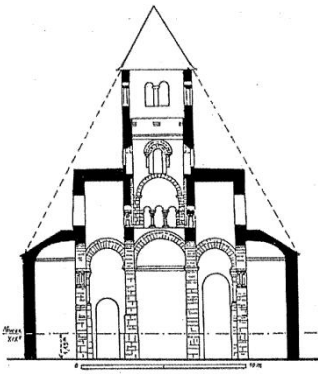
そこから見ると、つけ加えられた身廊がよくわかります。

礼拝堂は鐘楼とつながっており、鐘楼は内部を照らす頂塔の役割を持っています。

平行する両側は、この塔を支える機能を持つ4つの小さな四角で固められています。両側はそれぞれ後陣まで続きます。



Plan d'origine de l'oratoire



Reconstitution de l'élévation originale (IX^{ème} siècle)

東側後陣は更に2つの小さな後陣に囲まれていましたが、19世紀の工事の際に撤去されました。

礼拝堂に沿って回って行くと、南には身廊につけ足されたポーチが見えます。このポーチの下に八角形のタンクがあり、恐らく9世紀建築の際の土台であると思われます。

表門の上にある記述は、もともと塔内にあったものです。それは9世紀末に発行されたフロリー修道院の記録書で分かったもので、次のような文章です。

「私、テオデュルフは天の神を讃える為にこの寺院を建てた。君が誰であろうとも、神のしもべなのだ。ここに足を踏み入れたなら、私の為に祈ってほしい。」

では正面から中に入りましょう。

内部：古い部分の床には、西側後陣の位置と形態が示されています。

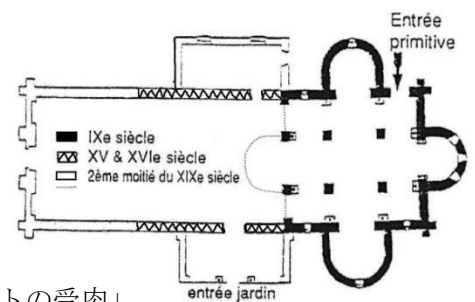
南東の石柱にはラテン語で次のような記載があります。

「1月3日当教会にて記す。」

北東石柱には別の記載があります。

「806年、聖ジェニエヴと聖ジェルマンの加護のもと、神キリストの受肉」

しかしながら専門家によれば、2つ目の記述は19世紀のものとのことです。



アーチの特殊性：U型をしており、馬蹄アーチまたは西ゴートアーチと呼ばれます。

テオデュルフが西ゴート（スペイン北部）出身であることの影響が明らかです。

ももとの床は現在の床から地下1.15Mにあり、大理石の敷石で飾られ、サンベノワ・スユール・ロワール修道院聖歌隊の床に近いものです。

モザイク



このモザイクは同時代のものとしてはフランスで唯一保存されているものであり、モチーフが契約の櫃（ひつ）であることもユニークです。テオデュルフは偶像を嫌悪していたので、教会内に神、キリスト、聖母や聖人の画像を置くことによって、これらが偶像崇拝につながることを恐れていました。従って、神とその教えを示す為に契約の櫃を用いたのです。聖書によれば、この櫃にはシナイ山で神がモーゼに与えた十戒が刻まれた石板が納められています。

モザイクが忠実に模している櫃の記述は、聖書の中にあります

(Exode25 10-21)。モザイク下にある記述は次の通りです。

「ここにある神託と智天使をよく見るがよい。これは神の教えの輝ける櫃である。この前での祈りによ

って雷鳴の主に近づくがよい。祈りにはテオデュルフも共にあることを忘れないでほしい。」
モザイクの材料は色によって異なります。色ガラスのキュービック、金箔銀箔もあれば、陶器のかけら
やロワール河の小石もあります。

モザイクの下の見えない小アーチには、その他のモザイクの残骸があります。

漆喰は19世紀の修復工事の際に新しくされました。オリジナルの漆喰のいくつかは、オルレアン考古
博物館に展示されています。

礼拝堂の家具

- ・ モザイクの下：16世紀ブルゴーニュ地方のピエタ
- ・ 北側後陣：15世紀木製聖アンヌと子供の聖処女
- ・ 身廊：2003年ジャック・ロワールのアトリエ製作のシャンデリア。シャルルマーニュの王冠を
かたどっている。シャンデリアにあるシンボルは、見学者をして宇宙を思うことに誘う。キリスト
教徒ならば、人間から神、空、そして人間へと下る世界を考えて頂く。
- ・ 身廊のステンドグラスは1981年、ルイ・ルネ・プチ製作。
- ・ 出口右側の洗礼桶は、19世紀に作られた6世紀のコピー。

観光局のブチックには詳しい説明のある案内書や本があります。

13世紀のリモージュ製浮き彫り七宝細工の聖遺物箱もご覧下さい。

ガイド付き見学は予約を条件として団体向けは年間可能、個人はハイシーズンに限ります。

礼拝堂でのコンサートもありますので、観光局でプログラムをお求め下さい。

Office de Tourisme Val d'Or et Forêt : 00 33 (0)2 38 58 27 97 – www.tourisme-loire-foret.com

